

監修の序

日本の高齢化社会においてリハビリテーションは、医療の中央に位置するとともに、重要な役割を果たして世の中に浸透してきていると日々感じています。実際にリハビリテーションとして患者さまや利用者さまに長い時間接しているのが、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士というリハビリテーション専門職です。随分昔、海外での学術成果が日本の医療業界で浸透するまで10年以上必要であると言われていました。学会に参加すると、医療は日進月歩、少しずつではありますが、確実に新しい発見があります。多くのリハビリテーション専門職の業界では、素晴らしい発想と努力が積み重ねられ、学術成果として発表されています。もちろんそれは日本に限ったことではなく、欧米でも同じです。いいえ、欧米の方が日本より明らかに素晴らしい沢山の学術成果が発表されています。そのような学術成果がまとめられ、国際水準が形成されるというわけです。

今回、『リハに役立つ論文の読み方・とらえ方』という書籍が出版されることになりました。私たちリハビリテーション専門職が常に国際水準である学術成果に接して、多くのリハビリテーションサービスを受ける方々に役に立つように企画されたものです。リハビリテーション専門職あるいはそれらを目指す学生が、本書を読むことにより学術論文を読み進めていくために必要となる論文構成や統計学、英語論文の表現や構成に対する理解を深めることができ、国際的な学術成果の理解に対する一助になったとすれば、本書に携わった全ての著者は何事にも代えがたい達成感を感じることができると考えています。

2020年2月

埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科
埼玉医科大学大学院理学療法学
赤坂清和

編集の序

1990年代からEvidence-based Medicineが謳われ、実証された根拠という”情報”を適切に捉え、活用するスキルが求められるようになってきた。医療の分野では、健康情報学を含む公衆衛生学において、この情報の活用に焦点が当てられている。

他方、理学療法・作業療法・言語聴覚療法を包括するリハビリテーション医学分野における教育では、残念ながら公衆衛生学の視点が非常に希薄であり、エビデンスや情報に対する適切な理解に乏しい現状は否めない。個性が高く、不確実性の高い分野において、情報の取捨選択に資するスキルを得ることは有用である。

そのような背景の中、本書を企画するうえで、2点に注目して進めることにした。1点目は、エビデンスの1つとなる論文や一般情報を読むうえで理解しておくべき前提知識である。例えば、読む論文の信頼性について、報告ガイドラインや論文内に出てくる統計学の基本的な知識の理解も重要である。また、Googleの検索エンジンの理解なく、検索したキーワードに合わせて出てくるページをショッピングするのは非常に危険であろう。

2点目に、論文を読むうえで必須となる英語の教養および論文独自の構成についてである。リハビリテーション医学分野に限らず、エビデンスを捉えるうえで、英文を避けることはできない。しかし、一般教養としての英語はいまだ日本でも苦手意識をもっている者も少なくないだろう。本書では、基本的な論文の読み方および論文を構成する基本的な英単語を掲載している。

医療の標準化は、クライアントの個別性を理解し、リハビリテーション職種の技術を提供するうえで必須であることは想像に難くない。標準化の前提となるエビデンスや情報を適切に取捨選択する能力の獲得に向けて、本書を参考にしていたら幸甚である。

2020年2月

株式会社豊通オールライフ 藤本修平
札幌円山整形外科病院リハビリテーション科 三木貴弘